

ウズラのモニタリング調査結果

1. 調査の背景

1980年代以降、狩猟によるウズラの捕獲数は激減し、平成19（2007）年6月に行われた狩猟鳥獣の見直しにより、平成19（2007）年9月15日からウズラは狩猟が禁止されることとなった（平成25年9月15日からは狩猟鳥から除外された）。

この狩猟禁止措置の効果検証のため、ウズラの生息状況等をモニタリングする手法等の調査検討を平成19（2007）年度より開始した。

非繁殖期（越冬期）の試行調査を平成21（2009）年度から平成23（2012）年度まで九州の2県で実施し、調査手法や生息環境に関する知見を蓄積した。さらに、平成25（2014）年度は、調査適期の把握のためこれまでに調査を実施していなかった11月に調査を実施し、これまでに得られた知見などから「ウズラの調査マニュアル」を取りまとめた。本年度は、このマニュアルに従い、これまでに複数年にわたって試行調査が実施され、比較的安定して生息情報の得られているモニタリング調査地点の2県4地点に加え、新たな調査地として2県5地を選定し調査を実施した。

2. 調査地の選定

（1）モニタリング調査地

九州地方におけるモニタリング調査地は以下の4地点である

- ① 熊本県阿蘇市 ② 宮崎県宮崎市一ツ瀬川（右岸） ③ 宮崎県宮崎市一ツ瀬川（右岸）
- ④ 宮崎県宮崎市加江田川

①～④は過去に試行として複数年にわたって調査を実施しウズラの生息を確認している地点である。（**図1～図4：赤線が調査ルート**）。

（2）新規のモニタリング調査候補地

九州地方における新規のモニタリング調査地の候補地として、以下の5地点を選定した。

- ⑤ 福岡県宗像市池田 ⑥ 福岡県宗像市原 ⑦ 福岡県福津市
- ⑧ 鹿児島県東串良町肝属川 ⑨ 鹿児島県志布志市安楽川

⑤～⑨については、過去にウズラを捕獲していた狩猟者（猟犬保有者）の調査協力が得られ、その協力者よりウズラの生息情報を得られた地点を調査地として新たに選定した（**図5～図9：赤線が調査ルート**）。

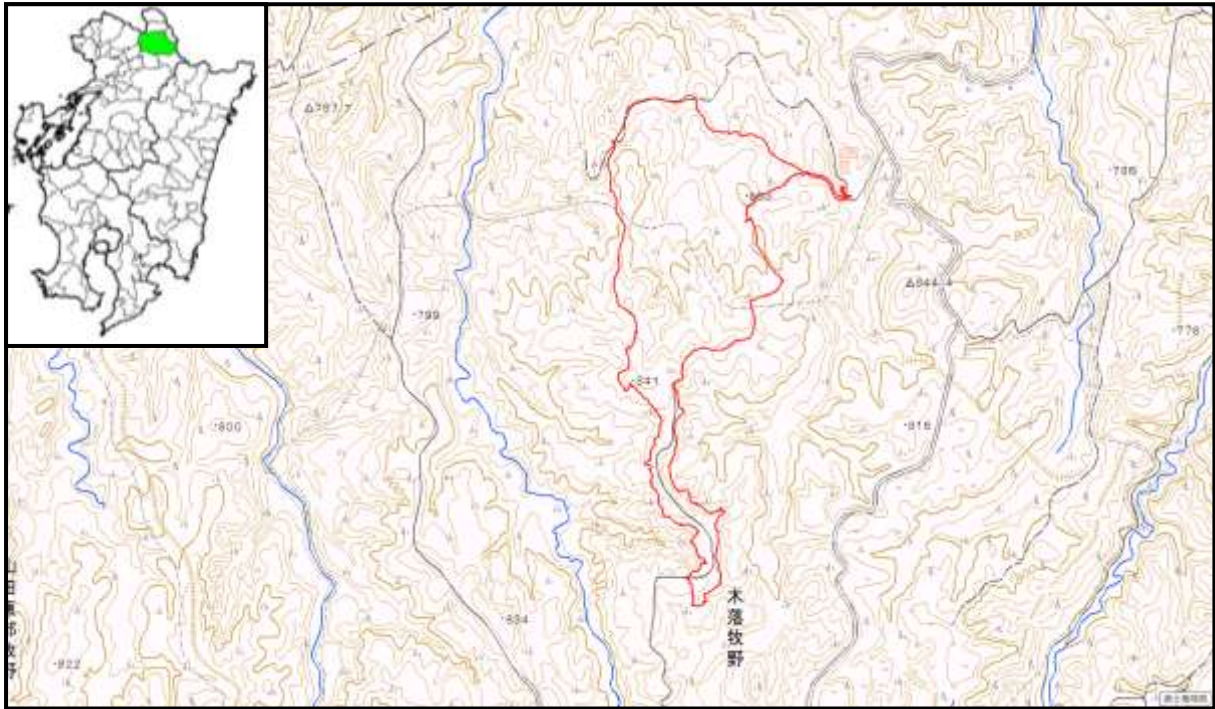


図1 踏査ルート(熊本県阿蘇市(放牧草地)、ウズラの確認なし)

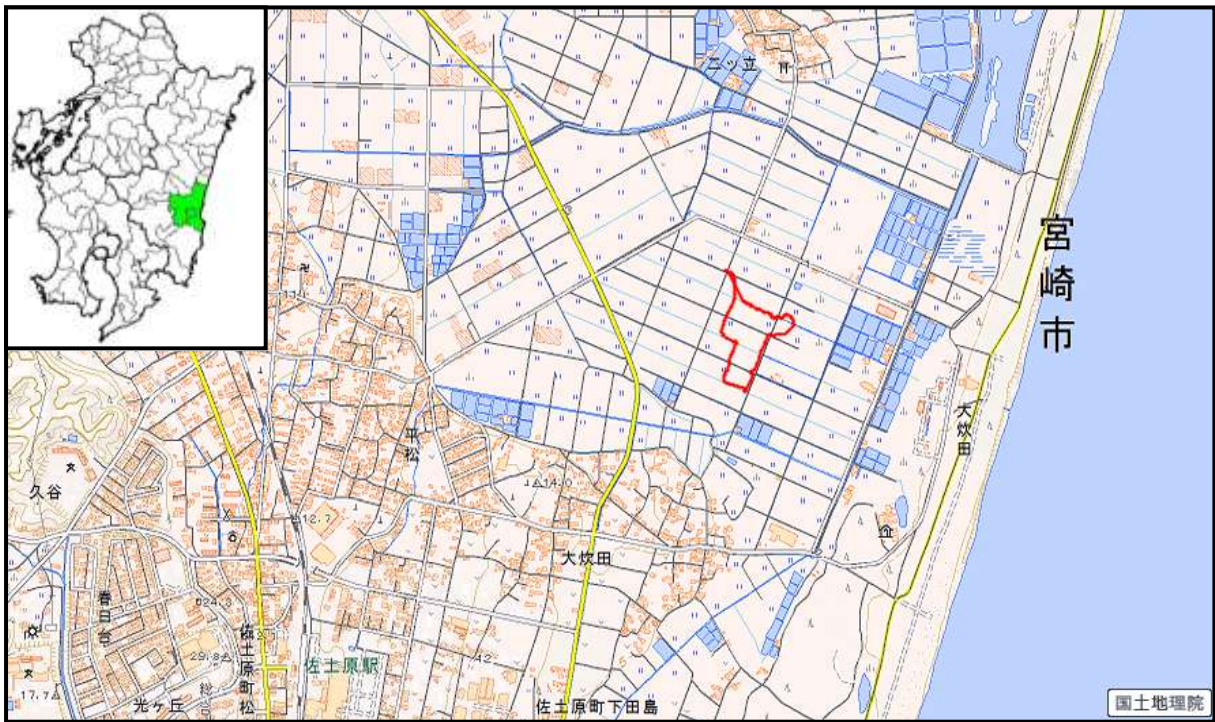


図2 踏査ルート(宮崎県宮崎市一ツ瀬川右岸(水田)、ウズラの確認無し)

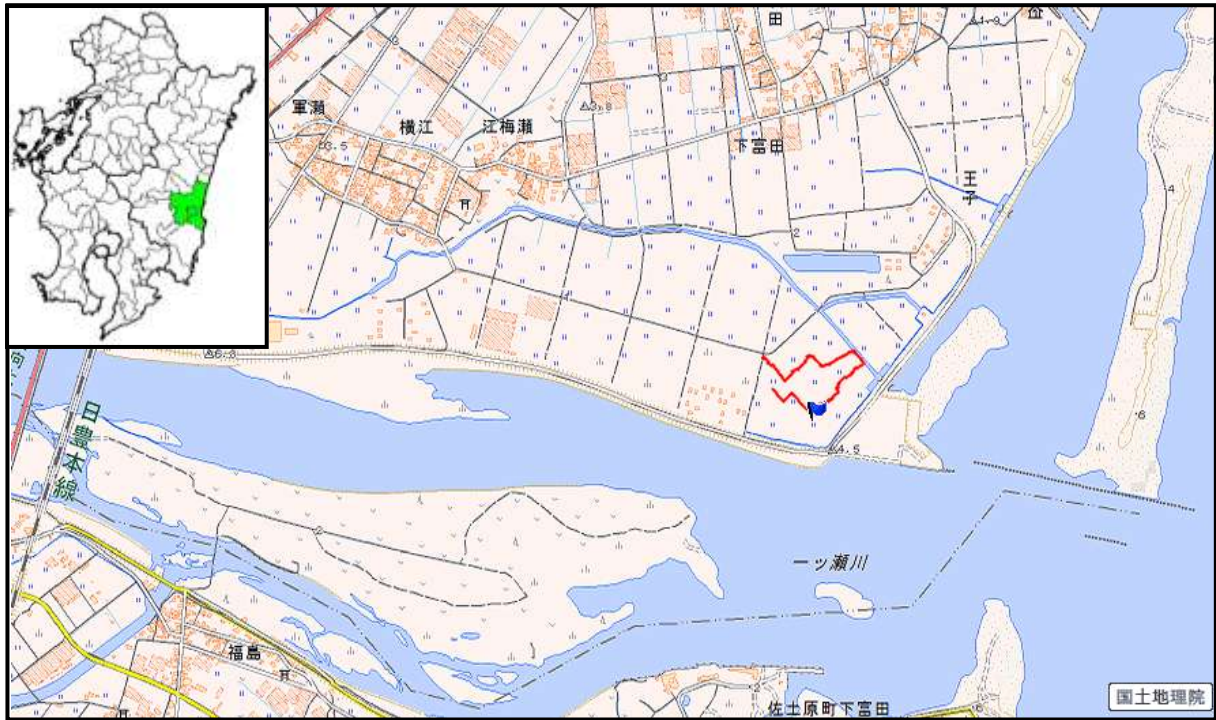


図3 踏査ルート(宮崎県宮崎市一ツ瀬川左岸(水田)、ウズラを1羽確認)

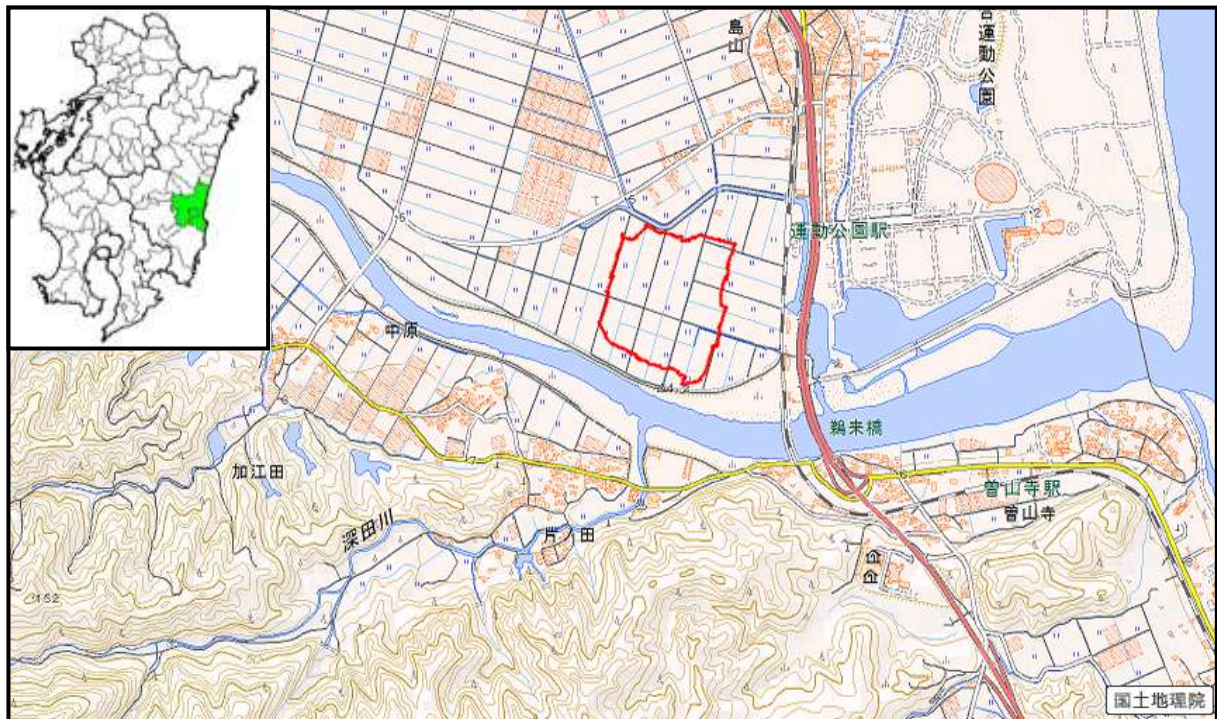


図4 踏査ルート(宮崎県宮崎市加江田川(水田)、ウズラの確認なし)

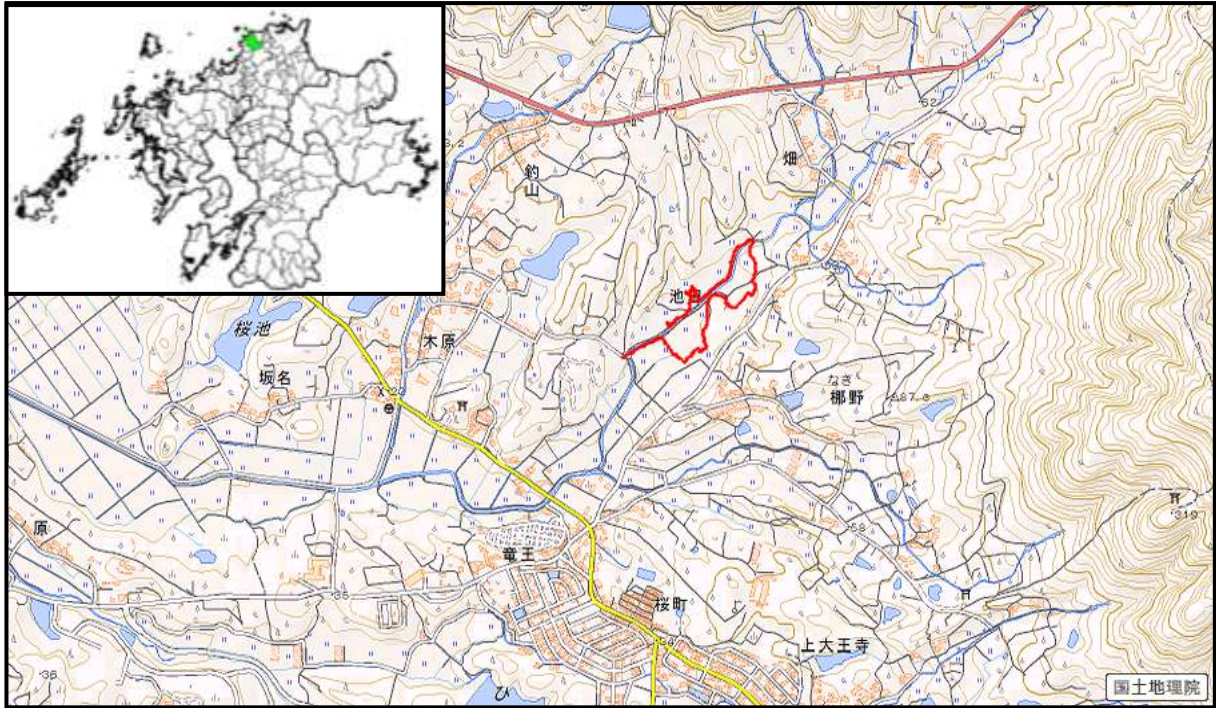


図5 踏査ルート(福岡県宗像市池田(水田)、ウズラの確認なし)

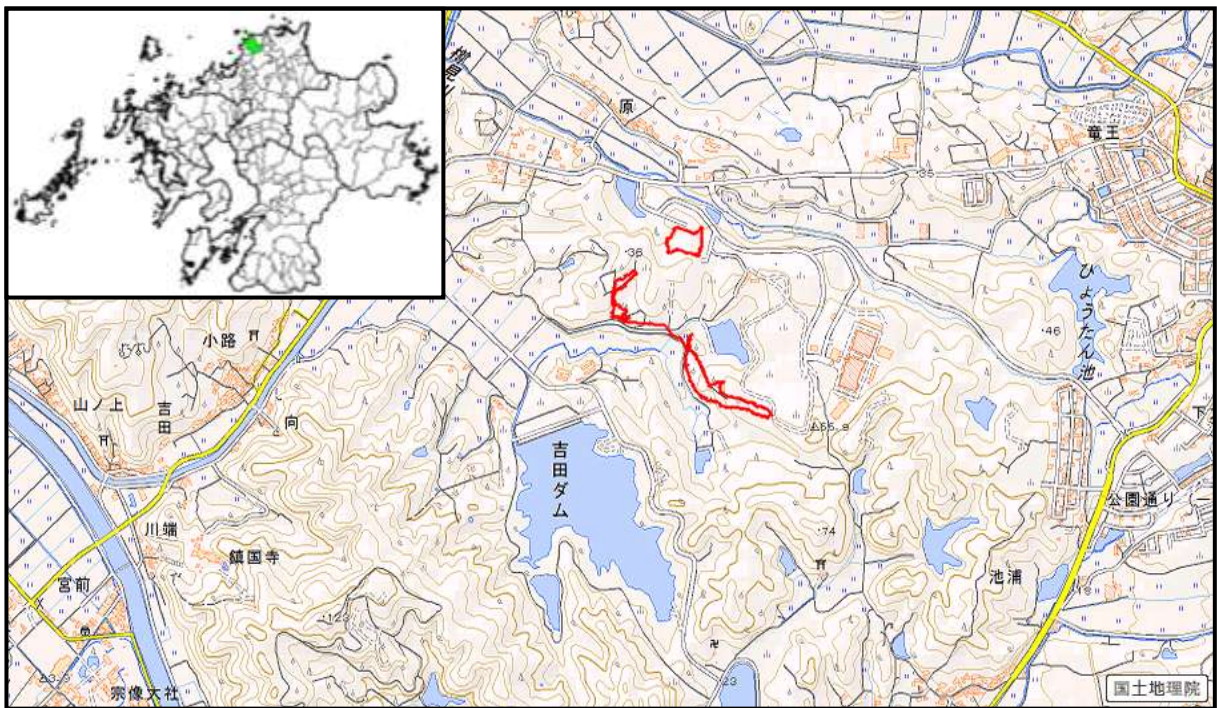


図6 踏査ルート(福岡県宗像市原(荒地)、ウズラの確認なし)

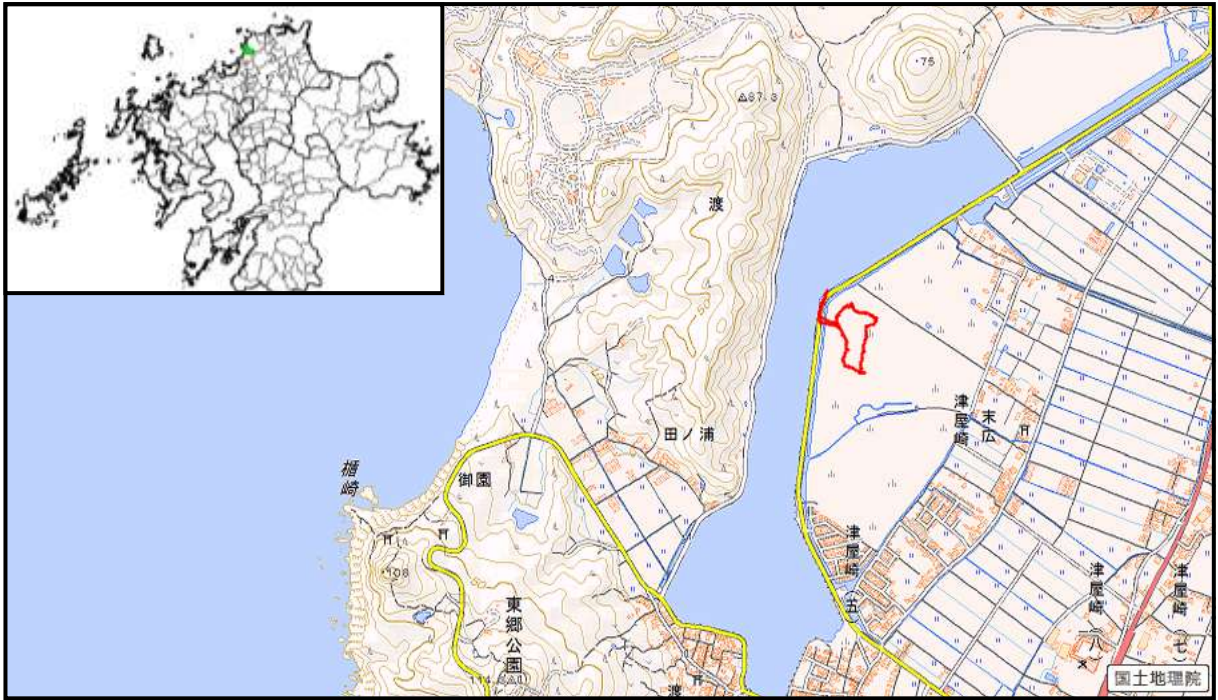


図7 踏査ルート(福岡県福津市(塩田跡)、ウズラの確認なし)

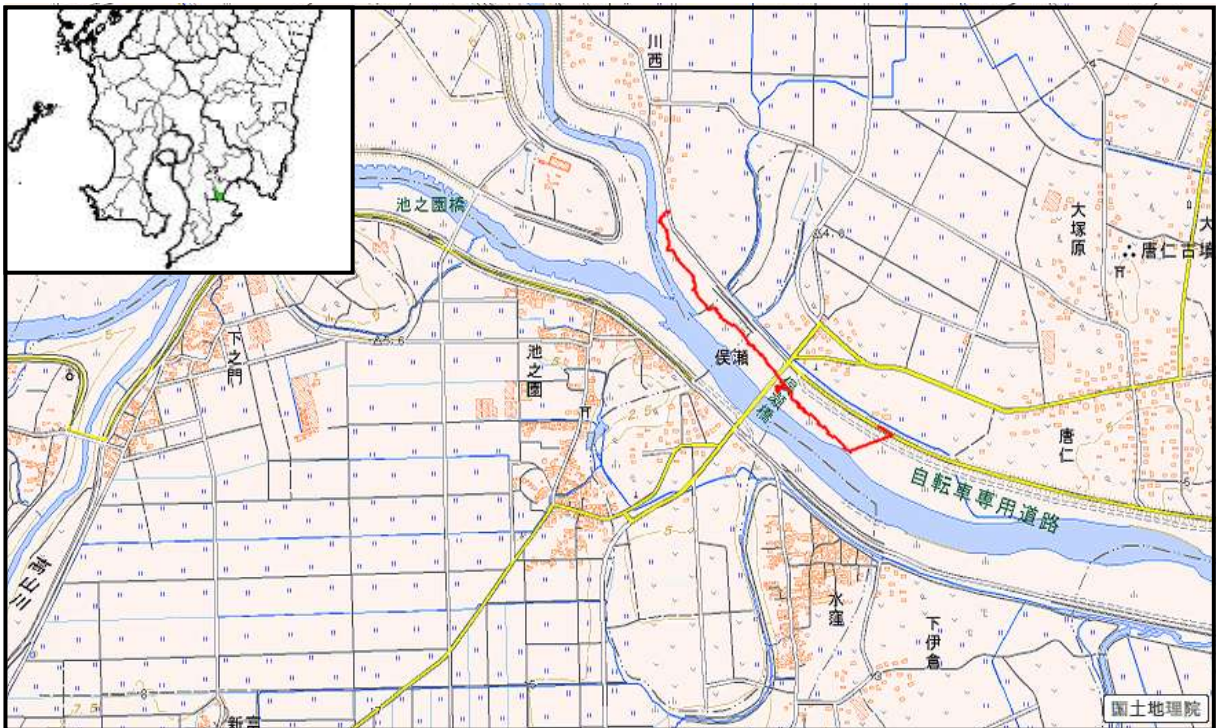


図8 踏査ルート(鹿児島県東串良町肝属川(河川敷)、ウズラの確認なし)

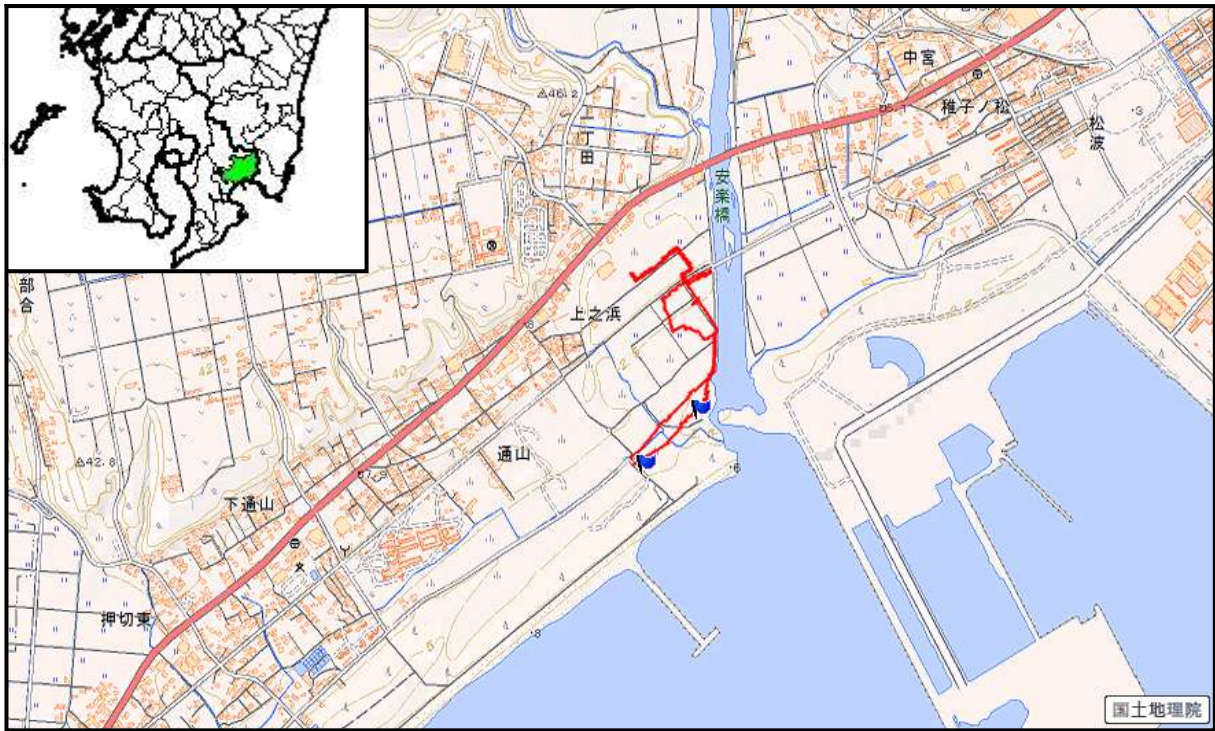


図9 踏査ルート(鹿児島県志布志市安楽川(河川敷)、ウズラを2羽確認)

3. 調査方法

すべて猟犬による追い出し調査の方法を用いた。

狩猟者が猟犬に鳥類を追い立てさせ、飛び立たせて捕獲するという猟法の一部を応用した調査方法で、調査地に猟犬を放し、猟犬がウズラを発見して止まった場所にて、周辺を同行調査員らが踏査し、ウズラを飛び立たせ、個体を確認する方法である。

モニタリング調査及びモニタリング調査候補地は2015年1月9日～10日に実施した（表1、表2）。

表1 調査概要(モニタリング調査地)

調査地域	調査環境	調査日時
熊本県阿蘇市	放牧草地	2015年1月9日
宮崎県宮崎市一ツ瀬川(右岸)	水田(営農+放棄)	2015年1月10日
宮崎県宮崎市一ツ瀬川(左岸)	水田(営農)	2015年1月10日
宮崎県宮崎市加江田川	水田(営農)	2015年1月10日

表2 調査概要(モニタリング候補調査地)

調査地域	調査環境	調査日時
福岡県宗像市池田	水田(営農+放棄)	2015年1月9日
福岡県宗像市原	荒地(草地)	2015年1月9日
福岡県福津市	塩田跡(草地)	2015年1月9日
鹿児島県東串良町肝属川	河川敷	2015年1月9日
鹿児島県志布志市安楽川	草地	2015年1月9日

4. 調査結果

(1) モニタリング調査地

本調査の結果、モニタリング調査地については、宮崎県内の1地点にてウズラを1羽確認した（表3）。

表3 調査結果(モニタリング調査地)

調査地	調査年月日	センサス距離 (Km)	確認羽数
熊本県阿蘇市	2015年1月9日	4.90	0
宮崎県宮崎市一ツ瀬川(右岸)	2015年1月10日	0.98	0
宮崎県宮崎市一ツ瀬川(左岸)	2015年1月10日	0.77	1
宮崎県宮崎市加江田川	2015年1月10日	1.47	0

(2) 新規のモニタリング調査候補地

本調査の結果、九州南部の調査地である鹿児島県の1地点で2羽のウズラを確認した（表4）。今回、福岡県では、いずれの地点でもウズラを確認することはできなかった。

表4 調査結果(モニタリング候補調査地)

調査地	調査年月日	センサス距離 (Km)	確認羽数
福岡県宗像市池田	2015年1月9日	1.33	0
福岡県宗像市原	2015年1月9日	1.93	0
福岡県福津市	2015年1月9日	0.87	0
鹿児島県東串良町肝属川	2015年1月9日	2.27	0
鹿児島県志布志市安楽川	2015年1月9日	3.59	2

5. 考察

(1) モニタリング調査地

昨年度までの調査結果を元にとりまとめた「ウズラの調査マニュアル」に定めた調査適期（1月初旬）に調査を実施した。

調査の結果、宮崎県でのみウズラを確認したが、全地点に渡って、生息確認数は減少傾向であった。

熊本県阿蘇市ではウズラを確認することができなかった。この理由として、11月下旬に噴火した阿蘇山中岳の影響が考えられた。ただし、調査地は噴火口から北に約16km離れた場所であるが、当地における越冬個体に何らかの影響を与えた可能性もないとは言い切れない。

(2) モニタリング調査候補地

調査の結果、鹿児島県でのみウズラを確認し、福岡県ではウズラを確認することができなかった。

ただし、ウズラを確認出来なかった福岡県については、調査協力者の方より、12月28日に宗像市池田及び宗像市原において、それぞれ1羽ずつのウズラを確認したとする情報を得ている。このことから、冬期に九州北部へ渡来したウズラは、渡来後の条件（生息地や気候など）によっては、渡来地に留まらずに移動してしまう可能性が示唆された。

これらの結果から、新規にモニタリング調査地を設定して調査を進めるに際しても、調査年度の気候などの条件により、一度のみの調査ではウズラの生息を確認することは難しいことが示唆された。

なお、今年度の調査において、調査協力者の方（福岡、宮崎、鹿児島）より、新たな問題の提起があったので紹介する。これまで、キジやウズラの生息地となっていた休耕田や遊休地（草地）が、近年急速に開発されているという点である。これは、日照条件の良い九州地方で急速に進むメガソーラー（大規模太陽光発電所）建設である。福岡や鹿児島では、ここ2～3年の間に有力な猟場（草地）が整地され、ソーラーパネルが設置されてしまったとのことであった。

このように、ウズラのための九州における優良な越冬地が急速に失われつつあるという新たな問題が確認された。

6. 本業務におけるウズラのモニタリング調査に関するまとめ

ウズラの生息状況等をモニタリングする手法等の調査検討に資するための調査を、平成 20 (2008) 年度より開始した。本年度まで行った調査結果について、繁殖期 (表 5～表 8)、非繁殖期 (表 9～表 11) 別に作表したものを以下に示した。

(1)繁殖期

繁殖期の調査に関しては、過去に生息の確認された地域について、年による確認数に違いが見られるものの、ほぼ安定して生息を確認することが可能であり、本業務である程度確立した手法を用いたモニタリング調査が成り立つことが示唆された。

表5 繁殖期モニタリング調査結果(北海道石狩川)

調査地	2009年度		2010年度		2013年度		2014年度
	2009年	2009年	2010年	2010年	2013年	2013年	2014年
	6月6・7日	6月16・17日	6月16・17日	6月16・17日	5月28・29日	6月19・20日	6月11日
北海道石狩川	4		8		1	1	2

表6 繁殖期モニタリング調査結果(北海道音更町十勝牧場)

調査地	2013年度		2014年度
	2013年	2013年	2014年
	5月30・31日	6月21日	6月12日
北海道音更町十勝牧場	1	0	3

表7 繁殖期モニタリング調査結果(北海道音更町小麦畑)

調査地	2013年度		2014年度
	2013年	2013年	2014年
	5月30・31日	6月21・22日	6月14日
北海道音更町小麦畑	1	3	6

表8 繁殖期モニタリング調査結果(その他)

調査地	2009年度		2010年度	2014年度
	2009年	2009年	2010年	2014年
	6月1・2日	6月8・9日	6月19日	6月11日
群馬県利根川	0	-	-	-
青森県岩木川	-	0	-	-
青森県仏沼	-	-	0	-
北海道豊頃町十勝川	-	-	-	2

(2)非繁殖期

非繁殖期に関しては、過去に生息の確認された地域であっても、年による生息確認のばらつきが大きく、実施したモニタリング調査のような短期間の調査では生息を確認出来ないことも多いことが示唆された。一方、調査協力者である狩猟者の方が、実際に出猟した際にウズラを確認したとする報告をいただく機会も増えている。

このようなことから、現状のモニタリング調査のみで生息状況を正確に把握することは難しいと思われる。そのため、非繁殖期に関しては、調査に協力いただいた狩猟者（主に犬を使った鳥猟をおこなっている方）へのアンケートによる情報集約といった手法の併用を検討すべきと思われる。

表9 非繁殖期モニタリング調査結果(熊本県阿蘇市)

調査地	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2013年度	2014年度
	2009年 3月9日	2010年 1月6日	2011年 1月13日	2012年 1月12日	2013年 11月13日	2015年 1月9日
熊本県阿蘇市	1	10	3	2	0	0

表 10 非繁殖期モニタリング調査結果(宮崎県宮崎市一ツ瀬川)

調査地	2009年度	2010年度	2011年度	2013年度	2014年度
	2009年 12月9日	2011年 1月12日	2012年 1月10日	2013年 11月14日	2015年 1月10日
宮崎県宮崎市一ツ瀬川河口(右岸)	2	0	0	0	0
宮崎県宮崎市一ツ瀬川河口(左岸)	5	0	0	-	1

表 11 非繁殖期モニタリング調査結果(宮崎県宮崎市加江田川)

調査地	2011年度	2013年度	2014年度
	2012年 1月11日	2013年 11月14日	2015年 1月10日
宮崎県宮崎市加江田川河口	2	0	0